

令和5年度第2回
埼玉県在宅緩和ケア推進検討委員会

令和6年3月13日
埼玉会館
埼玉県保健医療部医療整備課

議事

- 1 在宅緩和ケアにおけるPCAポンプ活用の取組について
- 2 埼玉県在宅医療及び在宅緩和ケアの提供体制に関する実態調査（案）について

報告

- 1 若手医師世代への在宅医療・在宅緩和ケアに係る啓発・理解促進動画の進捗について

その他

- 1 AYA世代がん患者に関する事業について

議事1 在宅緩和ケアにおけるPCAポンプ活用の取組について

議事1 在宅緩和ケアにおけるPCAポンプ活用の取組

1 取組の経緯

令和元年度に実施した埼玉県在宅医療及び在宅緩和ケアの提供体制に関する実態報告書において、「医療用麻薬や機器の取扱い等に関して地域の薬剤師が医師を積極的にフォローする体制の推進」が具体的取組例として列挙されている。

在宅緩和ケアに係る事業等進捗状況				
取組の方向性	考えられる取組	進め方		
		R3まで	R4	R5以降
在宅緩和ケアを担う医師の育成				
在宅緩和ケアを担う診療所医師や若手医師への知識・技術支援、情報提供強化及び啓発	在宅緩和ケア処方マニュアルの作成、周知	緩和ケアマニュアル	緩和ケアマニュアル	周知
	医師同士の連携ネットワーク 例：病院側・在宅側双方に有益な連携ツールの作成・顔の見える関係から発展した「相談ホットライン」	埼玉県版緩和ケアの痛みのアセスメントシートの作成		周知
	地域のがん診療連携拠点病院を講師とした研修会の実施	①がん診療連携拠点病院による研修会の実施 ②県が郡市医師会へ研修費用助成		
	在宅医療の実施を検討している医師を対象とした研修会の実施	医師会が県の委託で実施		
	学生・研修医段階からの緩和ケアに関する啓発・理解促進	県で検討		
在宅緩和ケアを担う医師の不安・負担の軽減				
多職種が協力・役割分担のもと在宅緩和ケアを推進する連携体制の構築、強化	患者からのファーストコールを訪看が受ける体制の周知	訪問看護協会が周知チラシ作成・周知		
	地域医療連携会議による多職種連携会議の設置等	県が郡市医師会へ研修費用助成（具体的内容は別途検討）		
	地域の薬剤師が医療用麻薬や機器の取扱い等医師をフォローする体制の推進	薬剤師会で具体案を検討・提案		
円滑な在宅療養への移行と穏やかな療養生活への支援				
病院と地域の「顔の見える関係づくり」を通じて、入院患者の在宅移行に向けて早期に連携できる仕組みの構築 ・ACPの普及啓発	がん診療連携拠点病院等と在宅関係者の連携体制の構築	埼玉県版緩和ケアの痛みのアセスメントツールの作成	周知	
	医師会、在宅医療連携拠点、市町村が中心となって入退院支援ルールを作成	地域で作成	県内全市町村で完成目標	
	在宅緩和ケア対応薬局リストの作成、周知	薬剤師会、委員会で作成、周知		
	患者にACPをチームで実践できる人材の育成など	「私の意思表示ノート」作成、県が郡市医師会へ研修費用助成		

* 令和4年度第1回
委員会資料より抜粋

2 具体的な取組内容

令和5年度埼玉県薬剤師会主催の研修において、PCAポンプの使い方等の実技研修会を実施し、在宅医療の必要性などの講義を行った。引き続き、地域の薬剤師が医師をフォローする体制を整備していく。

【研修内容の概要】

(午前Web)

講義 (1) 近年における小児在宅医療の必要性	埼玉県薬剤師会 常務理事	池田里江子 氏
講義 (2) 小児の栄養管理について	一般社団法人みらいけあ 代表理事	飯田祥男 氏
講義 (3) 在宅医療にかかわる薬剤師の立場で考えるデバイスと薬剤学	日本薬剤師会 理事	川名三知代 氏

(午後・実技)

講義 小児医療に係る無菌調製手技について	埼玉医科大学国際医療センター医療安全対策室課長補佐	土肥大典 氏
実技 小児における高カロリー輸液の無菌調製(5階) PCAポンプ、輸液ポンプの使い方、簡易懸濁と経管投与(3階) ※実際のポンプや人体モデルを使用し、経管投与体験。		

▶取組の詳細は池田委員より紹介。(資料2)

本日、御議論・御意見を伺いたいポイント

当委員会においても、委員からPCAポンプが使えると在宅医の負担軽減につながるという意見が度々出ている中で、

- PCAポンプの利用に慣れていない医師に、初めの一步を踏み出してもらうためには、どのような後押しがあればよいか。
- 初めの一步を踏み出した医師の、PCAポンプ活用を広げるために何が必要か。
また、PCAポンプを活用しようとした際に、支障となることはあるか。
(例えば、無菌調剤ができる薬局が少ない、等)

議事 2 埼玉県在宅医療及び在宅緩和ケアの提供体制に関する実態調査(案)について

1 取組の経緯

令和元年度に実施した埼玉県在宅医療及び在宅緩和ケアの提供体制に関する実態報告書を基にこれまで、本委員会ではその都度議事内容に合わせて、以下の取組を実施してきた。

これらの取組を行ってきたところ、一定の期間が経ったため、令和6年度は改めて在宅医療機関等に対して現在の在宅医療及び在宅緩和ケアの提供体制に関する実態を把握するための調査を実施したい。

成果物

- ・ファーストコールは訪問看護ステーション・普及イラスト（令和2年度）
- ・がんの緩和ケア処方マニュアル～初めの一步編（令和3年度）
- ・がんの緩和ケア処方マニュアル～実践編～（令和4年度）
- ・埼玉県版痛みのアセスメントシート（令和4年度）
- ・若手医師世代への在宅医療・在宅緩和ケアに係る啓発・理解促進を図る動画の作成（令和5年度）

2 具体的な取組内容

【調査に係る前回との変更点】

- ・調査会社に委託をして実施したが、今回は県が直営で調査を実施。
- ・調査票の郵送はせずに、WEB（埼玉県電子申請システム）にて回答集計。

【対象】

- ・医療機関（病院、診療所）
- ・薬局
- ・訪問看護ステーション
- ・地域包括支援センター
- ・老人ホーム

【内容】

- ・施設基本情報（施設名、職員数、患者数）
- ・在宅医療の提供に関する事項（在宅医療の実施状況、今後の実施見込、看取り等の実績等）
- ・入退院支援等の状況に関する事項（退院時カンファレンスの望ましい時期、退院カンファレンスの参加状況等）
- ・在宅緩和ケアの提供に関する事項（緩和ケアの対応状況、医療用麻薬の取扱いの有無、認定看護師の配置の有無等）
- ・ACPに関する事項（ACPの実施状況、実施していない理由）
- ・他施設との連携状況に関する事項（医療機関や介護事業所との間で患者情報をやり取りする頻度等）

3 新たに追加する予定の質問項目

- ・本委員会で作成した成果物の周知状況
(緩和ケア処方マニュアル、埼玉県版痛みのアセスメントシート)
- ・小児在宅医療
(小児在宅医療の実施状況、今後の実施見込)
- ・非がん患者の在宅緩和ケアの状況
(非がん患者の在宅緩和ケアの傷病種別)
- ・災害時の在宅医療提供体制
(BCP・マニュアルの有無、非常用電源の整備状況)

* 回答項目が増え、回答に手間を要した場合、回答率が低くなる可能性もあるため、質問項目は精選する。

本日、御議論・御意見を伺いたいポイント

- その他加えるべき質問項目などはあるか。